

裏打ちとその工程

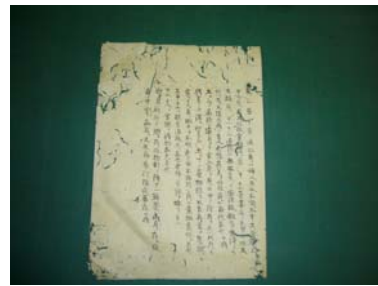
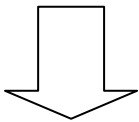
裏打ちとは

和装本の修復方法のひとつ「裏打ち」はさまざまな修復場面で用いられる。この手法は、本紙の裏全面に薄い和紙を糊で貼り付けることであり、そもそもは表装の技術である。

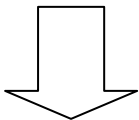
虫損直しに使うと、「繕う」より作業効率がよい。また、カビなどのため紙が脆弱になった場合には裏打ちをして強化する。和装本だけでなく、洋装本の修理にも有効である。ただし、全面に和紙が糊付けされるため、厚く、硬くなるという欠点がある。

<投げ打ち>

1 元の本紙

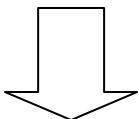


2 裏打ち紙の全面に糊を付ける

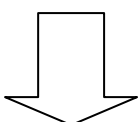


3 裏打ち紙を置く

よく湿らせた本紙（裏向き）が中央に来るように。

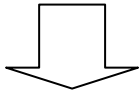


4 よく撫でつける

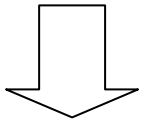


5 仮張りに貼る

よく乾燥させる。

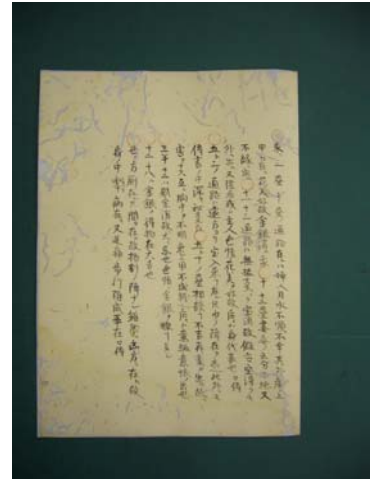
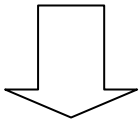


6 仮張りからはがす



7 化粧裁ち

本紙からはみ出た裏打ち紙を切り落とす。



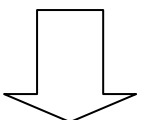
8 出来上がり

<直打ち>

投げ打ちが裏打ち紙に糊をつけて貼る方法であるのに対し、直打ちは本紙に直接糊をつける方法である。そのため、本紙を傷める危険性が高いので、限定的に行う。主に洋装本（一枚物の地図など）に用いる。



1 本紙の裏面全面に糊をつける



2 裏打ち紙を上へのせてよく撫でつける

